

欲望と表現

2012 バタイユ没後 50年

ポスト・バタイユ思想の展開



Georges Bataille
« Obstruction »

ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）の没後、彼の思想は現代思想の担い手たちに
どのように継承されていったのだろうか。

バタイユと彼らに共通の重要テーマ「欲望」と「表現」から、
前衛の思索を探る。

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 4階 S407教室（入場無料）

日時：2012年12月1日（土）・2日（日）12時30分開場、13時開演（予約不要）

問い合わせ先：法政大学 言語・文化センター Tel 03（3264）4742

第1日 12月1日（土）

1) 日本人の継承 酒井健

「三島由紀夫と岡本太郎：歴史性と演劇性」

2) モーリス・ブランショ 門間広明

「バタイユとブランショ：「経験」をめぐって」

3) ミシェル・フーコー 市川崇

「知の限界を問う欲望-フーコーによるバタイユ読解-」

4) ジャック・ラカン 十川幸司

「原光景」あるいは世界の外に触れること」

第2日 12月2日（日）

1) ピエール・クロソウスキー 大森晋輔

「バタイユとクロソウスキー：『わが隣人サド』をめぐって」

2) ジャック・デリダ 岩野卓司

「くそ真面目なバタイユ：「ジャック・デリダ「制限経済から
普遍経済へ ある留保なきヘーゲル主義」の可能性と限界」

3) ジャン=リュック・ナンシー 西山達也

「バタイユとナンシーにおける思考とイメージ」

4) ジョルジュ・ディディ=ユベルマン 江澤健一郎

「バタイユとディディ=ユベルマン：不定形と徴候」